

滋賀県立琵琶湖博物館
第三期中長期計画

令和3年度（2021年度）外部評価

令和4年（2022年）10月

外部評価について

琵琶湖博物館の第三期中長期基本計画は、目指すべき目標に向けて実施していく毎年度の計画を立てています。その年度計画に対して、毎年度末から新年度にかけてその実施した内容についての内部評価を行ったのちに、その内部評価に対する評価を外部委員に実施していただきます。外部評価は、滋賀県立琵琶湖博物館協議会の委員が外部委員として実施します。

外部評価は、琵琶湖博物館がたてた計画とそれに対する内部評価について、6つの事業目標ごとに、その評価が妥当な評価であるかを中心に検討し、琵琶湖博物館が目指す10年後の目標を最終到達点として、そこに向かうために必要な実施内容であるか計画になっているかも含めて、助言や意見を述べていただいています。

ここに公表する外部評価は、各事業目標に区切って表記しています。それぞれの事業目標での記述は、評価書を提出された順番に無記名で並べています。評価者が対象とする事業目標について特筆すべきことがない場合は、意見を述べないこともあります。なお、この公表の方法については、公表する年度の協議会において決定されました。また、評価の書きぶりを統一するために、ですます調への変更や漢字の変換ミスなどの明らかな間違いについては、事務局で修正いたしました。

実施していただいた外部評価については、琵琶湖博物館が行った内部評価と合わせて、各事業目標について、その報告性も含めた年度計画の見直しを行うために役立てられ、それぞれの事業をより目標に近づくように実施していきます。

○令和3年度（2021年度）外部評価の実施者

第13期滋賀県立琵琶湖博物館協議会委員（15名）

【事業目標1】琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介

重点事業 1-1. 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進

重点事業 1-2. 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える

重点事業 1-3. 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

○外部評価

- ・重点事業 1-1 について、科研費他の外部資金による研究ですが、研究代表者としてのテーマの獲得数からすると「基盤 C」と「若手 B」が多くなっています。これは若手研究者の努力を示しており、良いと思います。また、いくつかの財団基金による研究で代表者となっているものが9件と多いのも評価出来ます。しかし、研究代表者の「基盤 B」は1件、もっとも大きい「基盤 A」は分担研究が1件です。琵琶湖博物館の研究者が代表となるテーマで科研費「基盤 B」が文系と理系で、それぞれ一つは欲しいと思います。重点事業 1-2 について、研究成果の発表に関しては、内部評価は正当であると思います。重点事業 1-3 について、大型の研究機器の導入についての内部評価は良いと思います。出来るなら、この機器の活用を拡げる努力をしていただきたいと思います。共同研究で外部の研究者が使えるように制度を整えてください。あるいは、少し難しいとは思いますが、高校生などに「研究とはどういうものか」という教育活動に使えないでしょうか。大型機器の保持に関係してきますので、これは難しいかもしれませんが。
- ・重点事業 1-1 に対して、10年後の状況「琵琶湖やその周りの暮らしの価値を発見する活動を地域が盛んに行っている。」について、2022年に計画を再構築することですが、現在フィールドレポーターが活動しているような、市民参加型調査を基にした研究も盛り込むべきではないでしょうか。もちろん二つ目の状況「琵琶湖が世界中の研究者の注目の的となり研究プロジェクトが次々と生まれている」に対する計画も重要ですが、住民が主体となって行動することで地域での活動がなされていくため、そのための種まきも重要です。事業目標 3 にもつながりますが、学芸員が各地に出張し講座を開き、小さな子どもたちに科学や文化に興味を持ってもらうためのきっかけづくりをしてほしいです。もちろん現在行われている館内でのセミナーなども良い種になると思います。
- ・事業目標1の実施目標は、「琵琶湖やその周りの暮らしの価値」を「地域の人々」や「国内外の研究者」とともに「発見し、その魅力を国内外に発信する」とあります。ウェブサイトの再構築や J-Stage での公開により、研究者からのアクセス増が認められ、一定成果があったことは喜ばしいことです。一方で、10年後、「地域の人々」が「琵琶湖やその周りの暮らしの価値を発見するための活動を盛んに行う」まで到達するための具体の計画(その必要性)を、内部評価でふれておくべきではないでしょうか。高度で専門的研究を牽引することは博物館の重要な使命で、琵琶湖研究にとって必要なことだと

承知しています。しかし、地域住民にとって、総合研究や科研費研究は専門的でデータを分析し解釈することが難しいものが多い。よって、地域住民が、「研究」を「琵琶湖やその周囲の暮らしの価値」に結びつけるための具体的な方策が示されなければ、目標で終わってしまうのではないのでしょうか。博物館は、それらの研究成果をもとに展示や図表で解説し、一般の地域住民にわかりやすく伝えるノウハウを持っておられます。今後、研究成果の情報発信は何を目的として行うのか、地域住民は発信された情報を何に、どのように活かすことを期待するのかまで明らかにしていくことが必要だと思います。

- ・重点事業 1-1 について、後継総合研究の計画検討が遅れているとの自己評価ですが、進行中の大型プロジェクトの取り纏めの時期と重なっているので無理をせず、2023年度までに十分な時間をかけて立案していただきたい。重点事業 1-2、1-3 については、目標設定、実施状況、自己点検ともに適切になされていると評価します。研究専念日（時間）の確保はユニークで先進的な取り組みですが、博物館での研究活動のあり方の探究も同時に進め、他の事業・業務と対立させることのないよう留意してください。
- ・概ね内部評価と同様の評価と考えます。その中で気になる点について下記に挙げさせてもらいました。次の10年に向け「後継となる新たな総合研究」をぜひ実現させてほしいです。「J-Stage」の活用は良い。多くの研究者の目に留まる機会が増えてほしいです。研究の質を高めるために予算確保は重要。その必要性を県（県民）とどう共有するのかを考え続けてほしいです。
- ・内部表評価の報告書からは「より発信したい琵琶湖の魅力が何か」というものが読み取れなかったのが記載があるとわかりやすいです。外部評価は良。他に、琵琶湖にはたくさん魅力があると思うのですが、「魅力はこれだ」という大きく掲げるものがあると理解されやすいのかもしれませんが。事業目標が「魅力を掘り下げ世界に発信」なのですが、多くの市民や利用者は琵琶湖が国定公園だということも意識していません。研究者の方々の研究は大切なのですが、コロナ禍で発信された動画などを今後も進めていただき、研究者のお立場から、忙しいとは思いますが、市民が理解できる言葉での発信をお願いいたします。
- ・重点事業 1-1 と 1-3 について、2021年の年報を見て思ったことの一つに、共同研究や各分野における個人の研究の多さを知り、改めて研究専念日の重要性を感じました。重点事業 1-2 について、研究報告書の電子化 J-Stage での公開が開始でき、利用者が多かったことを評価致します。重点事業 1-3 について、新種発見等に繋がる電子顕微鏡購入の予算が得られた事は、今後の研究が加速することが期待でき、大いに評価致します。

- 重点事業 1-1 について、実施状況に「本重点事業については根本から再検討を行っているところである」と記述されています。一方、内部評価では、「1-1 は半分程度しか達成しておらず、その改善が課題として残った。」と記述されています。根本から再検討としているのに、半分程度達成というのはどういうことなのかと感じました。重点事業 1-2 については、実施状況からもかなり進行していると感じられます。情報内容の充実にぜひ取り組んでいただきたいです。重点事業 1-3 については、そもそも建物や設備の更新、研究機器の入れ替えということが事業なのかと疑問に感じています。研究の活性化ということで、「研究専念日」の設定は思い切った試みだと思います。課題等も記述されているが、その点はこれから改善していけるといいのではないのでしょうか。
- 重点事業 1-2 について、HP の「学ぶ・調べる」が検索しやすく、大変充実しています。さらに多くの人にページの存在を知ってもらい役立ててもらえたらと思いますが、現在の告知方法は？学校の理科の授業や夏休みの自由研究にも多いに役立ててもらえそうです。研究調査報告のPDF ページ数や学習動画のトータルタイムが記載されているのも親切で利用しやすいと感じます。研究調査報告の閲覧数が格段に増えたとのことですが、どの地域からのアクセスが多いのでしょうか？
- 10年後の社会目標に向け、研究成果等を国内外に広く発信していくことは非常に重要な取り組みであり、1年前倒しで、J-Stage に研究報告書の公開を開始したことは大変評価できます。研究成果を蓄積していくことが最も重要なことであるという観点から、全員一律の研究専念日を設定したことは、今後に生かせる改善だと思われるので、研究・事業専念日を厳格に運用する試行ができたことは大変評価できます。重点事業 1-1 について、根本から再検討を行っているとのことから、「1-2 と 1-3 については100%以上達成したが、1-1 は半分程度しか達成しておらず、その改善が課題として残った」という内部評価は、適切だと考えます。
- 重点事業 1-1～1-3 の事業目標と評価につき、書いてあることについては全く異論はなく、今後も数年後の展示の礎となるような琵琶湖の生態系や環境史に関わるすぐれた研究が展開していくことを願っています。外部評価資料に同封された第30回企画展示「チョウ展」の展示解説書をもみても、長きにわたる地域でのチョウの研究やはしかけの活動、収蔵資料の整理作業が基礎となり展示が成り立っていることや、自然史だけでなく養蚕に着目して文化的な側面にも触れていること、最後にフィールドへの誘いや図鑑があることなど、限られた紙面のなかで琵琶湖博物館の特徴がよく表れた構成となっていました。研究面について、事業目標では明示されていない領域にあえて踏み込むと、今回の外部評価の経緯とも関連して、研究部に設けられた3つの係のうち博物館学的な観点からの研究をより深めていく必要があるのではないかと感じました。もちろん長期間かけて実施を進めた展示リニューアルのなかで、博物館展示論に関わ

る論点は実践の場を得て、展示に十分に活かされていることは実感できるし、博物館教育論やメディア論においても琵琶湖博物館の継続的な取り組みが大きな意味をもつことは間違いないでしょう。今回の外部評価にあたり、「博物館を評価する視点」(琵琶湖博物館研究調査報告 17号、2000年)を再読しました。20年以上前にこうした先進的なシンポジウムが実施されていたことに改めて驚くとともに、この頃から培われてきたノウハウは今回の内部評価や外部評価に生かされているのだろうか、という懸念が生まれました。いまだ確立してはいない「博物館の評価」において、博物館学がどのように寄与できるのか、実践する機会といえます。続いて「博物館を楽しむ 琵琶湖博物館ものがたり」(川那部編、2000年)を再読し、学芸員さんの世代交代も進むなかで、ものがたりの続編「展示リニューアル編」を琵琶湖博物館での博物館学研究の成果として数年後に読んでみたい、という思いを抱きました。外部評価の一環としてここに書くことではないかもしれませんが、第三次中長期計画の後半に加えてほしい項目の一提案として付記しておきます。

- ・世界有数の湖である琵琶湖を主要な活動舞台(研究及び展示活動)である琵琶湖博物館として、その活動の方向性は概ね評価できるものと言えますが、世界へ向けてとなると、まだまだ活動範囲は広がると思います。例えば、毎年とまでは言わないが、5か年ごとに世界の研究者を招聘して、湖沼についての会議を開催するなど一案かと考えます。大きな予算を必要としますので、様々な助成金を活用していく必要があり、大変かと思いますが、ぜひ実施に向けて動いていただければと思います。
- ・目標に「世界に紹介」と掲げることに異議はありませんが、まずは足元固めが大切です。「滋賀県内⇒近畿圏内⇒日本」まずは、この順番に集中することです。滋賀県においても、周知・広報活動が不十分なところがありますので、地道なところから確実に、の進め方がよいかと思います。足元が固まり、その内容のレベルが高ければ、結果は自ずと広がっていきます。
- ・湖から恩恵を受け、生計を立てている人たち(沖島にろう者がひとりいます)や湖の現在の課題、例えば外来魚による生態系の危機や藻の爆発的な繁殖などと正面から向き合い、解決しようと頑張っている人たちの姿もぜひ世界に発信して欲しいです。もちろん、素晴らしい琵琶湖ですが、一方では大きな課題を抱えている琵琶湖。どちらも日本最大最古の湖である琵琶湖の姿なのですから。
- ・順調に研究を進められているとの内部評価はそれでよいと思いますが、琵琶湖の多彩な魅力を引き出す研究を継続的に実施していくためには、(プロジェクト型の研究の重要性は理解しつつ)それぞれの専門性を追求して検討していく専門研究、とくに博物館ならではの、時流に左右されたり競争にさらされたりするのではない地道な研究のさらなる充実が重要と考えます。そのためには、専門研究に割り振る研究予算を増加さ

せるなどの対応も検討の一つだと思います。正直、年間の個人研究費が6万円／年というのは「いくらなんでも少ない」と感じました。いろいろ事情があることは理解しますが、せめて20～30万円くらいにはできないものではないでしょうか。博物館の魅力は、それぞれの専門性の分野の学芸員が楽しそうに新たな研究の話ができていることだと思うので、その雰囲気をつくるためにも、このような検討も一つの方向性として検討していただけるとよいと思います。

【事業目標2】 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

重点事業 2-1. 標本・資料の管理体制の強化

重点事業 2-2. 標本・資料の整理の推進と公開による利用促進

重点事業 2-3. ICT を利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出

○外部評価

- ・重点事業 2-1 について、これは評価できます。ある意味で当然の処置ですが。重点事業 2-2 は、年報 26 号をみますと、「動物標本」のデータベース化は未着手です。琵琶湖は固有種の宝庫、写真を含めた動物標本データベース作成の努力を期待します。重点事業 2-3 は、「2-2」が基礎になります。並行して進められることを期待します。
- ・重点事業 2-2 について、ICT 化を進めることによって、多くの人が情報にアクセスできるのは大変すばらしいと感じます。しかし、生物のデータベースに関して、希少種の産地公開は避けたほうが良いのではないかと思います。産地を見て、乱獲する人もいるためリスクを伴うと感じました。また、無料でどこまでの情報を見せるのか、情報の取捨選択が必要かと思えます。サービスによっては有料化し、収益化するのも手だと思います。
- ・重点事業 2-3「ICTを活用し、だれでも、どこでも、いつでも使える博物館の創出」については、県民が博物館を身近に感じ、利用しやすい環境づくりという点で評価できる事業です。県内小学校等で活用されていた移動博物館の取組は、県内の小学生が博物館の標本・資料を活用しやすくする取組でした。今後は、VR技術を活用し、バーチャル博物館など多様な取組の創造を期待します。重点事業 2-1、2-2 に示されている「標本・資料の管理体制」、「標本・資料の整理の推進」についての内部評価を見ると、一般利用者としては、琵琶湖の自然環境、湖の周辺で営まれる人々の暮らしに関する貴重な標本・資料の管理状況、管理体制がこれまでどうであったかについて、より踏み込んで明らかにすべきだと思わざるを得ません。施設の老朽化に対する長寿命化工事の検討と管理組織の再編等による早急なデータベース化が必要なのではないのでしょうか。いずれにしても、博物館のみで対応できることではないと思うので、県琵琶湖環境部等との連携のもとでの対応を願います。
- ・各重点事業とも課題を的確に捉えて計画・実施されていると思います。資料の収集について、計画書には「特に収集は研究調査・展示等の活動に伴う収集を基本に、専門家、関係機関、地域の人々と協力を図りながら日々充実させていきます」と書かれています。重点事業には含まれていませんが、このテーマについても自己点検・評価が必要ではないでしょうか。
- ・概ね内部評価と同様の評価と考えます。その中で気になる点について挙げさせていただきました。事業目標 1 でも書いた通り、予算確保をどう進めるのか。（難しいのは承知していますが）例えば 3D スキャンによって資料をデータで残す、など日進月歩の技術を安価に利用していければ、と考えました。
- ・内部評価の評価に異論ありません。外部評価としては、課題なども明確で優。国内外の美術館や博物館を訪ねた時、音声ガイドを借ります。実際、現地には ガイドの方もお

られるのですが、自分の時間で回れることが音声ガイドの魅力です。導入されたことは感心できます。寄贈資料などを含め細かな整理は膨大な仕事だと推測できます。大変な作業ですが、ご尽力をお願いいたします。

- ・重点事業 2-1 について、以前、博物館協議会の後、収蔵庫の見学があり、雨もりがあることを知りましたが、その後修理ができ、改めて、保管環境の大切さがわかりました。重点事業 2-2 について、画像データベースの一部公開ができたことを評価致します。重点事業 2-3 について、音声ガイドシステム「ポケット学芸員」の導入は、来館者サービスの更なる向上につながり、大いに評価致します。
- ・計画通りに順調に進んでいるように思います。重点事業 2-1 について、保管環境・作業環境の整備に順次取り組んでいく様子に安心しました。
- ・開館から時間を経て、資料も増えていくなかで「整った環境」を維持し続けていくことの難しさは評価者も日常的に痛感しています。収蔵庫環境の維持管理にあたり、具体的な課題の洗い出しと改善を続けていくことは地味ですが、博物館活動の根幹にかかわってくる重要な事業であり、管理体制の強化を利用促進や ICT の活用という光が当たりやすい事業に先立って、重点事業 2-1 に据えたことは高く評価します。着実な実現と課題の解消を進めつつ、それが実は資料の利用促進と両輪となることを示していただきたいと思います。
- ・標記の事業目標をいち早く取り組まれていることは高く評価できます。ただ、滋賀県は中世から自然科学的資料の収集や、民俗的資料の記録を多く残してきた地域です。琵琶湖博物館はそれらの資料を積極的に収集し、整理されていますが、まだまだ全容を把握するまでには至っていないと思います。さらに、県内各地域の小さな資料館や個人に所蔵される資料も含めて、センター館としてネットワーク化を推進してほしいと思います。
- ・以前に収蔵庫に伺ったとき、担当の職員さんが、温度・湿度管理や菌管理（外部菌を入れない）に関して、「もっと厳重にやることはできるのですよ。ただ、どうしても限られた予算なもので・・・」との発言を聞きました。限られた予算は、周知のことです。「貴重な標本・資料」に関しては、専門ではないので、詳しくは分かりませんが、予算がなかったことで、「貴重な標本・資料」の劣化が進んでしまった。という状況にだけはならないで下さい。「貴重な標本・資料」は博物館の財産であり、守るべき内容として、基本中の基本に位置付けられるものです。予算要求の際、遠慮なく、進められるべき内容です。
- ・小学生でもひとり一台タブレットを配布される時代ですから ICT に対する期待は大きいですが、アナログな部分も残しつつ進めていただきたいと思います。ICT を使いこなせない高齢者や障害がある方々、日本で滋賀で暮らす外国人の方々を置き去りにしないように分かりやすい文章表現や今もすでにしてくださっていますが、文字の大きさや色や言語も選べるような配慮なども研究していただきたいと思います。特に視覚障害の方も楽しめる配慮や工夫が重要と考えます。例えば、PDF は、NG であるとか、字体は明朝は NG。ゴシックは GOOD などなど。障害者のためにという古い福祉感ではなく、『誰もがやがては障害者』という発想の転換で基準を UD な考え方で進めれば、みんなが楽だと思いたいです。

【事業目標3】 みんなで学びあう博物館へ

重点事業3-1. 幅広いニーズに応える交流事業の充実

重点事業3-2. 出会いの場の創出

重点事業3-3. 「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援

○外部評価

- ・重点事業3-1について、これは十分に良い評価ができます。重点事業3-2について、諸団体との連携は必要ですので、より一層の努力を期待します。重点事業3-3について、これに関する努力は大いに評価できます。できれば、何か刊行物にならないでしょうか。
- ・交流事業の現状把握調査や情報収集の結果を整理し、多くの利用者が博物館の交流事業に参加できる仕組みづくりを期待します。重点事業3-3「深く学ぶ力に基づく琵琶湖学習の支援」について、学校での環境学習を推進する上で、博物館が重要な役割を果たしており、評価できます。プランクトン観察学習やワークシートなどを活用して館内で調べ学習を進められるようにするなど、さまざまな工夫が積み上げられており、本県の環境教育の推進に大きく寄与しています。県内の小・中学生が、より琵琶湖を身近に感じ、ふるさと滋賀の豊かな環境を持続可能なものとする担い手となる意識を育てていくことが求められています。今後、主体的で、標本や資料、博物館研究員や学芸員、スタッフと対話しながら深い学びにつながるよう、問題解決的な環境学習プログラムを開発するなどの一層の工夫を期待します。
- ・計画書には「交流事業を再編する」と書かれています。琵琶湖に関する知的需要の拡大に応えるために、はしかけ、フィールドレポーター、フェスといった交流事業の枠組みの見直しに取り組んでいく方針であると理解しています。そのためには、これまでの事業の総括と課題抽出に時間をかけることが重要だと思いますが、その作業が年度計画に盛り込まれていません。現状把握や実施・受付方法の工夫などはむしろ日常的に取り組むべきことです。琵琶湖博物館では設立以来、博物館界では通常「教育普及事業」などとしているカテゴリーを使わず、「交流事業」という独自の用語を据えて利用者・市民との双方向性を重要視してこられました。そのことが実践の中でどのように定着し効果を発揮しているかという観点からも、この機会に点検してほしいと思います。
- ・概ね内部評価と同様の評価と考えます。その中で気になる点について下記に挙げさせてもらった。「学びあう」には、「広く浅く」と「狭く深く」があると考えます。「狭く深く」を期待する人への計画が少し書かれていると良いと感じました。学校の教師への研修やニーズへの対応は大切だと思います。ぜひ今後も進

めてほしいです。交流イベントなどは、滋賀の美術館が実施しているようなプログラムを参考にするのはどうでしょうか。他の博物館の情報を収集されているので、ぜひその方向で進めてほしいです。

- 内部評価について、全体的に異論ありません。重点事業3-2について、出会いの場の創出についてコロナ禍において出会いの場の創出は困難もあったかと思います。滋賀には多くの活動団体があって、NPOセンターなどでもあまり交流が深まらないので、いい方法を模索していただきたいです。外部評価は、調査などを実施してどうだったのかが不明良でわかりにくく、可。調査の実施は、アンケートの項目をつくり配布してレスポンスのデータ整理をする、という手間のかかることだと思います。集まったデータを活用してください。教員の方の要望である指導力向上も必要ですが、びわ湖学習の支援を行っている人のバックアップもしていただけるとありがたいです。
- 重点事業3-1について、屋外におけるイベントにプラスオンラインの導入等により、需要が高まったことを大いに評価し、今後のイベントの在り方に、随時新たな取り組みが期待されます。重点事業3-2について、「大阪自然史フェスティバル」のような賑わいのある「びわ博フェス」に進展していくことを期待し、かごしま環境未来館他さまざまな館より、そのヒントが得られるようリサーチを期待します。重点事業3-3について、教師の要望にそったびわこ学習（体験型も含めて）の研修とアンケートにより、教師の声を聞くことができたことを評価致します。一方で、プログラムを提供する博物館側からも「びわこのちから」が発揮できるような新たなプログラムの作成を期待致します。
- 重点事業3-1については、特に、「連携・提供型ニーズが高い」という現状が把握できたということなので、そのことについて2020年度を含め、早期の取組を期待します。重点事業3-3については、小学校段階では県内の5年生が「うみのこ」という学習船に乗って琵琶湖の環境等を学ぶ「フローティングスクール」が実施されています。可能ならば、フローティングスクールで学ぶ内容と違う学びや、あるいは発展した学びを博物館の方で仕組んでいただけるとよいのではないのでしょうか。
- 情報収集を積極的に実施されたので、5年計画の初年度としては順調なすべり出しだと思われまます。
- ニーズの多い交流事業についての調査や他館への情報収集を実施、研修に参加した職員へのアンケートを行うなど仕組みや制度への調査を多く実施しており、年度の計画に対する内部評価は適切です。一方で、10年後の社会目標を持続可能なものにしていくために、交流事業の活性化は大変重要ですが、この事

業目標3については、5年間の年度ごとの達成状況、達成に向け進めることが、とても緩やかなペースになっているように感じられます。10年後に向けて、もっとスピードアップして進めてほしいです。例えば、団体向け登録制度に関して「かごしま環境未来館」から情報収集を行ったのは有意義ですし、10年後に向けて第一歩を踏みだしたと思いますが、22年度に予定している登録制度の発足準備も21年度に開始できたのではないのでしょうか。予算や要員の関係があるのかもしれませんが、1年間かけて、1か所への取材だけで終わるのではなく、その取材結果や入手した新たな知見を生かして前倒しで次の段階に進められたのではないかと思います。また、教員が体験的な教材を主体的に生み出せる教員研修の確立も、10年後の社会にとって非常に重要であるとともに、すぐにも必要なこと、早めに確立させることだと思います。この目標を目指すにあたり、意識改革や効果測定も必要であり、それらが時間を要することに繋がっているのかもしれませんが、創意工夫しながらもう少し前倒しで進めていくべきだと考えます。

- 琵琶湖博物館の活動のなかで大きな特色といえる交流事業について、現状把握とニーズの確認に基づきつつ、具体的で必要性の高い重点事業3つが設定できしており、コロナ禍の影響もあったなか2021年度にも着実に実施できています。とくに3-3 琵琶湖学習の支援、教員の養成、は将来的な波及効果が大きく望める事業であり、体験を重視した琵琶湖学習の進展につながることを保護者の一人としても願っています。将来的に「体験」のメニューや選択肢を増やしていくにあたっては、その背景に常に「研究」の裏打ちがあるように進めていくとよいと思います。ただ、冒頭の指標・目標にある「利用者が実施者になった」という表現は内容が伝わりにくいように感じました。「最初は利用者として交流事業に参加したが、しだいに担い手になっていくような深まりを生み出していく」ということでしょうか。
- 開館当初から、琵琶湖博物館は様々な分野で利用者参加型の博物館を目指して、多く「はしかけ」を実施されてきたことは高く評価できると思います。学校現場との協業も徐々に進んできているように思います。ただ、滋賀県立ということが残念ながら足枷になって、滋賀周辺の府県（京都・大阪・岐阜・三重各県）との連携に課題があるように思います。湖を大きな対象とした琵琶湖博物館のような施設は他府県にはないわけですから、是非とも中高等教育施設と連携する取り組みを行っていただきたいと考えます。
- 子供さんから大人向けまで、様々な「学びあい」の企画が用意され、かなり進められていると思います。全部の内容を知っている訳ではありませんが、対面、

ズーム等、そのやり方は日々進化していると思います。乗り遅れないよう、更なる充実を期待しております。

- 県内の校種ごとに活用の工夫や課題を話し合う場を設けてもいいのかなと思います。別館の活用などの啓発も兼ねて県下順次。そのような関係性を持った上で、活用していただいた時の改善点などもやり取りをして改善することができたらいいなあと思います。改善し続けるのがUDのキーワードですので。
- 交流事業を含めたイベントについて、ニーズを捉えた実施内容を検討されるのはよい方向だと思います。ただ、そのことで交流事業が肥大していくことを心配します。年間のイベント開催件数は150に近かったと記憶しているのですが、控えめに言ってもものすごい数だと思います。それ自体は悪いことではないにしても、博物館の魅力の根幹である研究のための時間を圧迫していないか、またイベントのためのイベントが多くなって個々の事業への「思い入れ」が薄まる結果になっていないか、心配です。ニーズを捉えた事業を精査することや、博物館への支援者が中心になって行う事業の展開によって、学芸員の交流事業以外の事業をすすめるための時間の確保についても同時に検討されることを強く望みます。

【事業目標4】もっと使いやすい博物館へ

重点事業4-1. 誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長

重点事業4-2. 「観る」展示から「観る+使う」展示への成長

重点事業4-3. 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

○外部評価

- ・重点事業4-1について、「ポケット学芸員」の検討は良いと思います。実際に可動できることについて、さらなる努力を期待します。重点事業4-2について、「観る+使う」展示は良い企画です。琵琶湖の「実際のモノ」に結びつくコンテンツを選ぶ努力をしてください。重点事業4-3について、数年前に、新種タニガワナマズの展示を拝見しました。このような、琵琶湖博物館の研究成果を「一般に公開」する展示を増やしていただければと思います。また、その成果を「ブックレット」で普及させてください。
- ・より使いやすく、最新情報を備えた展示更新が適切になされ、来館者の評価も高いです。また、ICTを活用した情報提供ツールやインターネットでの動画配信など、来館者が標本や資料に多様な方法でアクセスできる方策が構築されてきており、評価できます。特設展示等も定期的に更新され、常に新しい情報を発信していただいている点も評価できます。小・中学生段階の子どもたちが、琵琶湖の自然環境や湖周辺の文化や伝統、生活や生活の素晴らしさに気づき、主体的に保全や伝承に取り組むことの大切さを認識できるよう、情報提供や情報コンテンツの発信に期待しています。子どもたちは、学校の校外学習やフローティングスクールで利用した後も「また琵琶博に行ってみたい」と思い、学校に配布される琵琶湖に生息する魚のポスターを眺めている子どもも少なくありません。子どもたちの興味や関心を育む工夫もお願いしたいです。今後も、最新情報への継続的な更新とコンテンツ作成、展示室内でのインターネット環境の整備等、令和3年度の課題を整理し、常に成長する展示として発展させていただくことを期待します。
- ・各重点事業ともに意欲的で年次計画に基づいて順調なスタートを切っていると評価します。引き続きウェブコンテンツを充実させてください。「展示から現場の情報・より詳しい情報をとりに行く行動を促す仕組み」については内容をイメージしにくいので、より簡潔なネーミングがあればと感じました。
- ・概ね内部評価と同様の評価と考えます。
- ・内部評価の記載に自己評価としてよいのかどうかはわかりにくいのですが、「検討が重要である」との末尾より考えれば、内部評価としては課題が残っているのでしょうか。「実施目標」に対しては、おおむね進展していると思われれます。外部評価としては、事業の進捗や今後の必要事項も明確で、優。ICTへの取り組みは重要ですが、今後のインターネット環境は必須です。経費負担はあると思いますが、工事など工夫をお願いします。
- ・重点事業4-1について、オープンラボでの活動が頻繁に利用されたことは、来館者から見ると、「博物館の見える化」により、博物館がより身近に感じられ、大いに評価致します。重点事業4-2について、C展示室および水族展示室の更新計画

の情報収集は、成長していく博物館として来館者の期待する所であり、大いに評価致します。

- 重点事業 4-2 については、「QR コードを用いて琵琶湖博物館インターネットページで公開している『電子図鑑』や『おうちミュージアム』コンテンツ等へ接続することを一部展示で試験的に実施した」と記述されていますが、反応はどうだったのか知りたいところです。「観る」展示から「観る+使う」展示への成長はその通りだと思います。今後は、例えば VR などの技術を使って、「模擬体験できるコーナー」などができてくるといいのではないのでしょうか。
- 重点事業 4-2 について、QR コードの連携により展示の奥行きが広がり理解や興味も増すので、時代に合った有効な手法だと思います。博物館を出た後も探求が続くよう、ぜひさらに発展させて欲しいです。
- 令和3年度は、情報収集や検討、小規模な試行実施で、「ほぼ計画通りに実施できた」という内部評価は適切です。
- "展示のリニューアルが一段落してそれで終わり、ではなく、「常に成長する展示」を目指していく姿勢は非常に好感が持てます。今後もそうした真摯な姿勢を貫いてほしいです。
- この事業では「最新情報を得ること」が「現場への興味」へとどのようにつながっていくかが重要になってきます。「観る+使う」展示への成長、という目標とも密接に関わってきて、まずは魅力的なコンテンツを増やしていくことが課題になります。さらに、それがフィールドへの入口となるためには、「情報」と「実際の現場」をつなぐようなステップをいくつか設定し、具体的な導線を複数の動画や展示のなかに入れ込んでおくような仕掛け作りも有効でしょう。
- 先年から大型の展示替えが実施され、より充実した展示になったと思います。ただ貴館だけではなく<自然>の展示ではもどうしても手狭感は拭えません。この問題は自然史系の博物館の大きな課題です。バーチャルやフィールド観察を多用するなどの工夫が必要になりますが、これも人数や環境から制限が生まれてしまいます。今後この課題に対してどのような対応が可能なのか、模索していただければと思います。
- 以前に今森光彦さんが撮った琵琶湖の生き物たち、そしての琵琶湖水系・・・のNHKの番組を見たことがあります。一見、地味と言われる生き物たちの生きる力のダイナミックさ、壮大な物語を感じることができました。地味は地味なりに発信のやり方等で、「入口」としての展示から、そのファンを拡大していく方法はいくらかでも見つかると思います。派手なものより、地味な中での光るものを見出す。この姿勢が、くらげの鶴岡市立加茂水族館のような変容があるかもしれません。
- 目標と評価指標が抽象的で分かりにくい。来館者の推移や改善につながるアンケートの項目を検討して実施してはどうか。障害別でもいいかもしれません。

【事業5の目標】より多くの人を利用する博物館へ

重点事業 5-1. ICT を利用した琵琶湖の魅力とその入口としての博物館の紹介

重点事業 5-2. 双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映

重点事業 5-3. 来館しやすい環境の整備

○外部評価

- ・重点事業 5-1 について、YouTube の活用は良いと思います。ただ、事業として重点事業 4-1 と区別がつきにくいと思います。重点事業 5-2 について、「来館者アンケート」と「認知度調査」の継続と検討、大いに評価出来ます。重点事業 5-3 について、これについて特に意見はありません。
- ・重点事業 5-1 について、現在 YouTube などの SNS を使った情報発信が行われていますが、ソーシャルメディアポリシーなどを作成し、SNS 上で起こりうる様々なトラブルを回避する必要があると考えます。また、バーチャルミュージアムを作成する際、どこまで見せるのか、深く検討する必要があると思います。すべてを見せて解説してしまい、視聴者に満足感があると実際に来館することは減ってしまうのかもしれませんが。ミュージアムショップやレストランなども含め琵琶湖博物館の魅力だと思うので、視聴者や利用者の反応を見ながらうまく発信して行ってほしいです。
- ・各重点事業目標と実施状況から、博物館の社会的・教育的価値付けを行うための取組が進んでいることは評価できます。今後は、現在の取組を推進しつつ、博物館の社会的評価を行うための評価指標を明確にして、事業内容の精選と、工夫・改善を図る必要があります。
- ・ウェブサイトの改良やキャッシュレス・チケットシステムの導入などが計画通り（以上）に順調に進捗していることがわかりました。予約システム非継続の判断も適切だと思います。調査・評価手法の見直しと再構築に取り組まれるとことで、今後に期待します。協議会によるこの評価の位置付けも明確にしてください。
- ・概ね内部評価と同様の評価と考える。その中で気になる点について挙げさせてもらいました。ICT の事が多く書かれていましたがあくまでツールであり、SNS や口コミ、広報など「訪れてみたい」と思わせる内容を深めてほしい。アクセスに関して、乗用車以外のアクセスが難しいのが現状かと思います。県で進めている「自転車活用」をタイアップしてみるのはいかがでしょうか。
- ・内部での評価が高い項目だと感じました。予約のシステムの継続についてはコロナ禍の課題であり、今後は解消も見込めると感じます。今後も引き続きご尽力をお願いいたします。外部評価も、内部評価に従い、優。

- ・重点事業 5-1 について、「びわこのちからチャンネル」の創設は、好奇心と知識欲を満足させる企画的な取り組みで、琵琶湖博物館がより身近に感じられ、今後、大いに評価致します。また、「学ぶ、調べる」はアクセスしやすく、工夫されたことを評価致します。重点事業 5-2 について、定期的なアンケートの実施は、来館者と共に歩む琵琶湖博物館としては、今後も継続していくことを期待致します。
- ・重点事業 5-1 については、学習目的でのアクセス機会を増やす工夫をしたり、各展示室の 360 度動画や研究紹介動画を複数本アップしたりするなど、取組を進めていることがよく伺えました。
- ・重点事業 5-3 について、アンケート結果による予約システムの不満を受け、当日キャンセル待ち枠を設けてはどうでしょうか？基本的に事前予約制ですが、予約ナシで来館した場合も、コンサートのチケットのようにその時間帯に「空き」がある場合に限り、特別枠で先着順に入館が可能とする。ただし、空きがゼロの場合もあります。お店の混雑状況がリアルタイムで分かるように、博物館の混雑具合が分かると、利用時間帯を分散でき、コロナ禍でも利用者増にもつながるのではないのでしょうか？
- ・多くの人々が琵琶湖の魅力を知るために、そして琵琶湖と共生することの価値を感じる事が出来るようになるために、いつでも誰でも博物館を利用しやすくなることは大変重要です。ウェブの世界はどんどん進展しており、目標達成に向け、事業目標 4 と同様、多角的な視点を持って創意工夫しながら力を相当傾注し取り組んでほしいです。琵琶湖博物館の HP（インターネットページ）は、非常に多岐に亘る項目をきちんと整理して掲載していて、見やすく、わかりやすく、利用しやすいです。360 度動画など大変面白い。「びわこのちからチャンネル」は、ユニークで情熱のある学芸員によって、琵琶湖の魅力や琵琶湖とともに暮らす人々の生活のリアルさが存分に伝わってきます。琵琶湖の魅力を知るために、そして後世に伝えていくためにもとても良い企画だと思います。ウェブの整理やアンケートなどの内部評価は適切です。予約システムについては、コロナ禍終了後は継続しないと判断したとのことですが、コロナ感染の収束がなかなか見通せないのが現状です。一方で、博物館利用者の利便性やシステム、人的負担を考慮すると、予約システムは早期にやめた方が良いと思われます。屋外ではありますが、J リーグでは、スタジオでの観戦者が、（マスクを着用しての）声を出して応援することの試行を一部開始しています。コロナ対策の専門家に相談し、予約をしないで、感染防止策を徹底しながら博物館への入館、鑑賞する試行を実施してもよいと考えます。

- ・「利用しやすい博物館」という目標には異論がないとして、事業目標1で述べたこととも関連させると、重点事業5-2の「博物館の状況を客観的に評価するための調査・評価手法の検討」にあたっては、事業評価というやや行政的な側面だけではなく、博物館学的な視点からの評価手法を導入・確立していくように模索することも有効ではないでしょうか。
- ・博物館活動を入館者数だけで評価してきたこれまでの評価軸に対して、多様な評価軸を見出そうとするこの評価事業が新しい試みとして注目されるもので、高く評価できると思います。
- ・【事業目標3みんなで学びあう博物館へ】と【事業目標4もっと使いやすい博物館へ】に重なるテーマですが、伝達媒体の進化は目まぐるしいものがあり、そこには常にアンテナをはり、最新でしかも効果がある方法を取り入れる必要があります。あとは中味ですが、私見ですが、今森光彦さんの琵琶湖のNHKの番組で感動をしました。ということは、一見、地味と言われる生き物たちの生きる力の中には、感動を引き出すものはたくさんある、ということです。その感動が伝われば、人々には自然と伝播します。派手なものより、地味な中での光るものを見出す。この姿勢が、くらげの鶴岡市立加茂水族館のような変容があるかもしれません。
- ・誰もがアクセスしやすく、検索しやすいということを話の真ん中に、当事者の意見も聞きながら進めていただきたい。博物館に出向かわなくても、楽しめるものがコロナ禍の中、間違いなく進んだと思いますので、他府県や他館の取り組みもリサーチして欲しいです。

【事業6の目標】博物館の活動を安定して継続する

重点事業6-1. 老朽化した施設の改修と災害への備え

重点事業6-2. 安定した活動基盤を確保する仕組みづくり

○外部評価

- ・重点事業6-1について、以前から申し上げていることですが、博物館の玄関付近の状態です。小川は水が枯れて打ち捨てられ、その周囲の植物は乱雑です。これ、なんとかならないのでしょうか。再整備すれば、印象がよくなると思います。重点事業6-2について、これは、頑張ってください、としか言えません。
- ・危機管理マニュアルの共有や外部資金確保の努力にご苦労いただいています。素晴らしい博物館施設、収集されている学術研究標本や資料を次代に残すため粘り強く取り組んでいただきたい。やはり予算が必要な項目であるので、博物館の社会的・教育的・学術的価値を明確にし、県民の理解のもと早急な対応が望まれます。老朽化への対応、耐震化等の災害対応について、専門家によるアセスメントはできているのかを明らかにすべきです。小・中学生が施設を利用しているときの災害訓練を自治体や近隣の学校と連携して実施し、マニュアルを定期的に見直すなどの災害策をお願いしたいです。
- ・リニューアルが一段落して、施設の整備・改修についてあらためて必要箇所の洗い出しを始めておられるということで了解しました。2022年度には現場として中長期的な改修計画を策定とのことですが、その実現のためには、計画に対する設置者（県）との合意形成が重要課題になるので、年次計画上の位置付けなども必要ではないかと思えます。博物館施設における危機管理の分野は多岐にわたっているので、統合的なマニュアルを作成するという方向性に賛成します。外部資金による財源の安定化を目指しているようですが、県からの予算措置と外部資金との関係性やバランスをどのように考えておられるのか、目標も含めて明確にされたい。館のウェブサイトの「びわ博サポーター」のページには現在もリニューアルへの寄付金のお願いが掲載されています。2022年度からサポーター制度の見直しを進めるとのことですが、とりあえずの対応ができていないのではないのでしょうか？
- ・概ね内部評価と同様の評価と考えます。その中で気になる点について挙げさせてもらいました。事業目標1、2でも書きましたが、予算確保があってはじめて安定継続が成ると考えます。昨今の異常気象の被害など新たな想定も必要となるため、ぜひ必要性を訴え続けてほしいです。一般市民に近い（分かりやすい）事業の予算に関しては「クラウドファンディング」も一案かと考えます（例：法隆寺の修繕など）。ただ、（全ての項目に関わりますが）クラウドファンディングに挑戦することで職員の手間がかかり研究や通常業務が滞ることは本意ではありません。
- ・内部評価では、今後課題が残るようです。課題が明確化されているのではないのでしょうか。今後も、老朽化の修繕対策や外部資金の確保などの課題に対して、取り組んでいただきたい。外部評価は、内部評価でも課題が残る

- ため、可。外部資金の調達について多くの人知っている琵琶湖博物館ではありませんが、資金を調達するには、その資金使途の明確化が人の動向に影響します。何にどれくらい必要なのかを打ち出して、民間や個人の賛同を得やすくし、資金調達に活かしていただきたいです。
- ・重点事業 6-1 について、気候変動により災害が起きる確率が格段に高くなってきているため、早急に現状調査を進めていただきたいです。
 - ・「計画は順調」となっていますが、一方で、「現地調査が未着手」や「仕組み作りまでできていない」とあります。事業目標 3 と同様、事業目標 6 についても、5 年間の達成する状態（目標）や進めることが、緩やかなペースになっているように感じます。災害に耐えられるような資料の保管環境を実現する改修を優先的に進めるとのことですが、達成状況などをみると、あまり危機感が感じられず、緊急性がないと理解すればいいのでしょうか。重点事業 6-2 の目標も、行政手続きは 2023 年度にならないと進められないのでしょうか。「博物館の活動を安定して継続する」ための、活動基盤となる施設・設備や運営資金は非常に大切であり根幹だと思いますが、この計画からは、その必要性があまり伝わってきません。とても重要な目標であり、もっと時期を早めて進めていくべきだと考えます。
 - ・安心・安全が各方面で求められるなか、災害対策や危機管理体制の見直しなどは普段から必要なことで、まず改修を視野に入れた建物・施設の点検を進めていくのは確かに重要なことです。しかし、博物館活動の肝である標本・資料の保管環境整備が二の次になっている（ように事業計画上は見えてしまう）ことは問題で、災害時の文化財レスキューや自然史資料のレスキューが毎年のように各地でニュースになっている現状を踏まえると、標本にも危機が及ぶことへの備えは常にしておく必要があります。重点事業 6-2 で支援を受ける仕組みの確立に向けて事業計画として最後にしっかり明示されていることも重要なことで、広報と総務が両輪となって効果的に進めていくことが望まれます。
 - ・厳しい言い方になりますが、滋賀県の場合、博物館に対する行政的評価が定まっているとは決して言えません。日本列島を逆立ちさせたような滋賀県は、歴史的・文化史的・自然史的にも特異な位置にあることを行政に理解させる必要があります。この意味で世界的に知られた琵琶湖を活動の中心に据えられている貴館の役割は非常に重要なものと考えられます。他府県からの評価や世界からの評価をもっと喧伝する必要があると思います。
 - ・【事業目標 2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備】にも重なるテーマです。「貴重な標本・資料」の維持は最低限なこと、予算がなかったので、「貴重な標本・資料」の劣化が進んでしまった、という状況にだけはならないで下さい。予算要求の際、遠慮なく必要な額は要求して下さい。それが、安定運営につながる一つの方法です。同時に問われるのが「自ら律する力」です。予算要求に頼らずに自らの力で、安定運営につなげる方法は、上記の【事業目標 5 より多くの人利用する博物館へ】のテーマ内容を地道に積み上げるしか方法

はないと思います。今は、クラウドファンディング等の方法もありますが、公共施設では、難しいです。公共施設でも行えるクラウドファンディング的なものを見つける必要もあるかもしれません。

- より多くの方々の来館を望むなら、まずは安全性の確認や来館者が利用者が不便はないか？！例えば、ドアなどの開閉は子どもでも高齢者でも障害者でもスムーズにできるかなどの観点で、常に近くにいてくださる展示交流員さんから声をあげてもらえるようなシステムを持っていただきたい。私が、一番気になるのは、授乳室のブラインドが折れていて危険であること（もう修繕してもらっていたらごめんなさい）と障害者用おトイレのドアが重いことです。館内を満喫していただくためには、赤ちゃん連れのママが、また誰もが使いやすいトイレかどうかで決まると思います。今や、大型商業施設やスーパーでさえも、居心地のいいおむつ替えコーナーや授乳室、おトイレや化粧室に力を入れています。